

2. [産業振興について]

吉田町会場（吉田健康福祉センター）

Q11：企業立地と定住対策について。加茂町など市内中心部への企業誘致にあわせて、将来地方を豊かにするのであれば、周辺部である吉田町に住宅を建設するなどして、吉田町から通勤できるシステムを確立してほしい。それによって市内がリンクして活性化して、雲南市の中の吉田町も将来性のあるような構想を望む。少子高齢化からの脱却にもつながる。

A：高速道路が開通して、吉田町が本当に近くなった。どこにでも短時間でいける、そういう環境が吉田町の場合整ったと思う。では、ここに住む人を多くするためには、来る人を多くする対策が必要と考える。そのためには、吉田町の持っているポテンシャルを十二分に発揮することが必要である。吉田にはたたら製鉄という地域資源がある。この鉄という地域資源を十二分に発揮し、専門家だけではなく、子どもを含めた幅広い方に親しんでもらうための対策が必要。

大阪で「エヴァンゲリオンと日本刀展」が開催されている。現代を代表する刀匠たちが若者に人気のエヴァンゲリオンの世界から影響を受けて作った新作刀を展示しており、全国各地から多くの来場者がある。この企画を吉田で開催しても必ず人は来ると思う。こうした取り組みを実施し、多くの来訪者があることによって、地元で暮らす方たちも、この地域が持っている資源のすごさや、すごい地域なのだということに気が付き、多くの人が訪れるし、「住んですばらしい」と多くの人が思える地域になり、それをやることによって定住人口の増にもつながると考える。

公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団で、今年度から「うんなんこども冒険団」という企画を実施している。子どもたちが年間を通じて、川で砂鉄を採り、木を切って炭を焼き、たたら操業をし、小刀を作って、それを使って地域の食材を料理して食べて帰る。ものづくりを一から十まで体験できる企画。こうした事業を手作りで始めることによって、吉田町や雲南市の持っている魅力に気がつく。そういったことを織り交ぜながら、定住対策に取り組んでいかなければならないと考えている。（市長）

Q12：①中山間地等直接支払制度交付金および農地・水保全管理支払交付金について、どのくらいの件数で総額がどの位か伺いたい。協定集落等へ交付金が支払われるのが年度末であり遅い。現場を確認して、市の方で立て替えるというようなことを行っていただければ随分担当者が助かる。集落の担当者も高齢化しており事務処理が負担になっている。奥出雲町ではもう少し早く交付されていると聞く。スピード感のある交付を要望する。

②観光の視点からの行政と議会の改革について。全国から雲南市に人を呼び込む一番の方策は、行政と議会の大改革を実施し、その視察を受け入れることだと思う。

市の行財政改革についてはまだまだやるべきことがたくさんある。市職員の待遇も恵まれていると思う。例えば新庁舎が建設されても市民が市役所を訪れることは少なく、職員の執務環境の改善くらいにしかつながらない。その前に大改革をやっていただきたい。職員の勤務日数は年間200日足らず。地域イベントとして吉田町ではななかまどフェスタが開催され、職員もスタッフとして参加しているが、これもボランティアではなく代休扱いと聞く。市民との目線が違う。職員が地域のために自ら行動するような方向でなければ市民は極めて冷ややかな目で見ると思う。また、雲南市職員であっても市外に居住している者がいる。市が税收を上げようとしている中で、一方でこうした職員に対するなんらかの働きかけがなされているのか気になるところである。

議会についても、年に4回も議会がある中で、一般質問をされており、議員報酬が支払われているが、私はそれだけが議会費ではないと思っている。一般質問の通告があると、市のそれぞれの部局で答弁書を作るのにエネルギーと時間を費やし、会期の間も3日くらいかけて入れ替わり立ち代わり質問がある。こうした議会対応に費やすコストはかなりの額になると思う。議会対応に費やす時間があれば、例えば教育長であれば学校の現場を見に行くなど別の部分に力を入れるべき。議会対応ばかりではだめ。雲南市議会にも反問権を付与すべきである。政務活動費もあるのに、自分が調査しなければいけないことを執行部に押し付けて質問する議員も随分見かける。議会も議会改革をされて、全国から観光客が絶えないようになるように、観光資源としてやっ

ていただきたい。

あわせて、市民の中には市に対していろいろな要望や提案がある人も多い。島根県が実施している県民ホットラインのような、要望、提案を寄せることができるような仕組みを作ってほしい。いずれにしても市長には市、行政の大改革を実行していただきこれが一番の観光資源になるように努力してほしい。

A：中山間地等直接支払制度交付金および農地・水保全管理支払交付金の支払いについて。

まず、中山間地等直接支払制度交付金については、市内217の集落協定に対して、3億1889万円8千円支払っている。例年1月末に支払っている。これは国の交付決定通知を待たずに先駆けて支払うことが制度上困難なためである。交付決定通知を受けた後は早急に支払うようにしている。奥出雲町については、確かに当市よりも1ヵ月程度早く支払っているようであり、今後もう少し詳しく状況を確認し参考にしたいが、奥出雲町においても交付決定を待ってから支払いとのこと。

農地・水保全管理支払交付金については、市内87組織があり、1億2086万4千円支払っている。農地水環境保全協議会という県の協議会からそれぞれの組織に支払われている。この交付金を一旦市が支払うと二重交付になってしまうため制度上不可能。ただし、この事業については、5月に35%の概算払い、8月から9月に45%の概算払いをしており、おおむね80%は年内に支払われている。ご負担をおかけしているが、このような形で運用をしていただくということでご理解願いたい。

こうした状況であるが、市としても現行制度の中でできるだけ早く支払ができるよう、今後も県を通じて国へ要望していく。いろいろとご意見をいただく中で、改善点を見い出しながら、こうした事業を活用していただけるように努力していきたい。(産業振興部長)

A：行財政改革について。雲南市が平成16年11月1日にスタートし8年が経過した。6町村の合併により市となった雲南市は、人口も合併した当時は46,000人程度だったのが、現在42,000人だが、元々から市であった同規模の自治体と比べて職員数も予算も1.5倍程度であった。したがって同規模自治体と同程度の職員数、議員数、予算規模にしなければならないということで行財政改革に取り組んできた。その結果、今ようやく一つの指標として財政状況が改善してきたところ。しかし、雲南市は、地方交付税の算定基準の一つとして国が定めている標準団体(面積160km²、人口10万人、人口密度200人/km²、世帯数39,000世帯)と比較して、雲南市は面積553.4km²、人口約42,000人、人口密度約70人/km²、世帯数約13,000世帯といびつな地方公共団体であり、したがって、標準団体として交付していただくには、もっと努力していかなければいけないわけだが、今与えられた条件の中で努力している状況である。議会におかれても、議員の数は随分と減らされてこられたし、職員の数も減らしてきたし、借金も減らしてきた。できるだけ行財政努力を行って今に至っている。また、合併に関する特例の廃止による地方交付税の大幅な歳入減の見込みなども想定されることから、今後も更なる努力が必要な状況。職員数、議員数ともに大幅に減ったが、まだこれから80人から90人程度の職員を減らしていかなければならないと思っている。しかし、あまりに減らしすぎると住民サービスに支障をきたすことにもなるため、その点も考慮しながら実施していく。

市の職員の待遇については、確かに、しっかりと組織機構があるという点では恵まれているといえる。しかし、労働効率に勤めながら必要最小限の人数で業務を遂行しており、身を粉にして働いている職員も多にいる。心身の不調を訴える職員も非常に多い。こうした職場環境を公平に見たときに、休めるときには休んでという状況を実現しなければならないと考えている。今は必ずしもそういった状況にないということをご理解いただきたい。

議会に対する反問権については、今後議会と執行部で十分に話し合いをしていく中であるべき姿が実現できると考えている。

これからもしっかりと行財政改革を実施し、「雲南市も雲南市議会も頑張っているぞ」ということで視察に訪れていただけるような行政機構を目指していきたい。指摘いただいたことをしっかり受け止めて(議会にもお伝えしておくが)議会と執行部が一緒になって努力していきたい。(市長)

Q13：企業誘致について。県内における木質バイオマス発電について新聞に特集記事が掲載されていた。松江のナカバヤシ工場跡と江津にもう一か所建設予定とのこと。発電所ができると木材チップの需要が増えると

ということで、山陰丸和林業さんなどもプロジェクトチームを立ち上げるといった内容であった。現在は撤退し空き工場となっているが、吉田町にもナカバヤシさんの工場があり、最盛期には100人以上の従業員がおり吉田村一の事業所だった。現在工場内は機械等も撤去されているよう。ナカバヤシさんが木質バイオマス発電に取り組むのであれば過去の縁で、旧吉田工場をバイオマス発電に関連した施設として利用することはできないかと思う。場所も吉田の町の入りがけにあり、景観面からも何かしらの利用を検討すべき。また、吉田には高齢ではあるが木工製品を作る方が数人いる。この場所で木工製品を展示、販売するような構想もできる。こうした考えはないか。

A：松江市でナカバヤシさん、江津市で豊田通商さんにより木質チップ発電が計画されている。島根県素材流通協同組合という団体がチップの供給を請け負うとのこと。この事業がうまくスタートすることを期待するが、発電所に安定的に木質チップを供給できるかは不透明という話も聞く。また、ナカバヤシさんや豊田通商さんが、島根の森林整備についても大きな役割を果たしたいと考えておられるのか、発電事業で利益を出せばよいという思いだけなのかまだ見えてこない。このあたりをよく見極めた上で、雲南市としてもチップの供給をすべきということであれば協力をして、この事業が雇用の創出にもつながればよいと考えている。こうした動きの中で、旧ナカバヤシ吉田工場跡地も、それに関連する施設として活用できればそれにこしたことはないと思っている。また、この事業に関わらなくても企業誘致の場として活用できればよい。常にこうした視点は持っているので今後ともご意見をいただきたい。(市長)

要望：たたらば壱番地についても指定管理団体に任せるだけではなく、説明にもあったとおり来訪者を市内へ誘導する取り組みなどを市が主体となってしっかりと実施していただきたい。